

2017年12月期第2四半期決算説明会における主な質疑応答

(2017年8月1日(火)、東京)

- Q1. 上期の業績上ぶれ要因について教えてほしい。
- A1. ガラスファイバの業績が想定を上回ったこと、液晶用基板ガラスが予算通り進捗しガラスファイバの伸びを下支えしたことです。
- Q2. ガラスファイバはどのような用途、地域が伸びたのか。
- A2. 買収した欧州事業が今期フルに効いています。また、用途では自動車エンブラ部品向けや欧州の風車ブレード向けが好調でした。
- Q3. 通期予想を増額したが、上下で見ると下期減益の前提となっている理由を教えてください。
- A3. 液晶用が上期好調であったため下期をやや堅めに見ていること、ガラスファイバが欧州得意先の夏季休暇による稼働減や年末在庫調整などの季節要因を下期に見込んでいることなどです。
- Q4. 営業利益段階では中期経営計画の目標を達成できる状況になってきたが、来期以降どのようなテーマや目標を掲げて事業に取り組んでいくのか。
- A4. まずは今年の目標を達成することに注力したいと考えています。来期以降については、来年2月の通期決算説明会でご報告したいと思います。
- Q5. 以前、DOE 2%を配当の目標値としておいていたとの発言があったが、今も変わっていないか。
- A5. ターゲットの1つに置いている点では変わっていません。
- Q6. 上期前年比で150億円増収、営業利益は75億円増益だが、各々の増加要因を教えてください。
- A6. 増収分の半分以上は取得した欧州ガラスファイバ事業が効いています。この他、マレーシアのガラスファイバの増産分が今期100%寄与していることや、ガラスファイバの主力生産拠点であるマレーシアの通貨(リンギット)安も効いています。増益分についても、ガラスファイバの売上増による要因が大きいです。液晶用も、前年比で設備修理が少なかったことや生産性が向上したことにより増益となっています。

Q7. 取得した欧州事業は「のれん償却」などで利益貢献は低いとのことだが、ガラスファイバは、それを含めても10%以上の利益率が出ている。つまり、オーガニックの部分の利益率は、昨年比でかなり上昇したと見て良いのか。

A7. その通りです。

Q8. 液晶用基板ガラスはコストダウンのため設備の強健化を進めているが、営業利益率は10%台が視野に入ってきたか。

A8. 改善してきましたが、全社平均は下回っています。

Q9. 中国パネルメーカーの増産や主要顧客のOLEDへの積極投資などを聞く。この先、液晶用基板ガラスのキャッシュの使い方はどのようなものになるか？

A9. 主要顧客については、支援要請があれば投資を検討していくことになると思いますが、それ以外は慎重に対応することになります。ただ、原則として回収できない投資をする意図はありません。

Q10. 得意とするチョップドストランドは、汎用品や自動車などへの用途展開が中心だと思うが、電子材料などの付加価値高い分野に投入し、規模を追うのではなく、収益性を向上させる考えはないのか。

A10. 当社もかつてプリント配線基板用のヤーンの事業をかなり大きな規模で行っていましたが、中国メーカーなどの台頭により撤退しました。現在は産業用ヤーンに特化して規模を落として継続しています。エンジニアリングプラスチック用チョップドストランドの事業にシフトした理由は、この分野が伸びると考えたためです。チョップドストランドの主な用途は自動車用ですが、家電など、幅広い用途展開が期待できます。ただ、これだけでは先々のガラスファイバ事業のプレゼンスは高まらないので、今後は買収した(旧)PPGの欧州事業も活用しながら、風車ブレード用などの分野を伸ばしていきたいと考えています。

Q11. ガラスファイバの上期の数量増は、自動車向けのどの部品が増えたからなのか、或いは欧州の風車ブレード用が伸びたからなのか、このあたりを教えて欲しい。

A11. 風車ブレード用は伸びました。自動車向けも当然伸びていますが、どの部品が増加したかは我々では把握できません。

Q12. M&Aの効果を除いて、ガラスファイバ市場の成長率をどの程度と考えているか。

A12. 5%程度と見ています。

Q13. ガラスファイバの売上目標の 1,000 億円達成のため、PPG の米国拠点を取得すれば達成できると考えて良いのか。或いは、新たな投資が必要なのか？

A13. 米国の買収案件がクロージングすれば、達成のめどがつかうと考えて良いです。

Q14. スマートフォンの筐体用の化学強化ガラスに参入する考えはないのか。

A14. 化学強化ガラスは、自動車用途も含め色々な用途に採用されるべく研究開発を続けています。

Q15. ホンハイ社が米国に液晶パネル工場を作り、ガラス工場が米国にできれば米国政府がアンチダンピングなどをしかけてくる可能性がある。そうなれば、今日アジア中心のガラス工場の立地が今後変わる可能性はあると思うか。御社も声がかかれば米国に進出する可能性はあるか。

A15. 可能性はよくわかりませんが、当社が米国に進出することは現実的ではないように思います。

以上

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。